

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
35	川崎市立平中学校	原田 佐由利

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○自ら学び、深く考える人になろう</p> <p>○向上心を持ち、正義を愛する人になろう</p> <p>○思いやりがあり、信頼される人になろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的自立に必要な能力・態度(社会常識・考える力・対話力・判断力)を育成する</li> <li>・実践活動・体験活動等を通して、互いを認め学び合う、共生・協働の精神を育成する</li> <li>・生徒の将来を考え、家庭と地域との連携を深め、協力関係を推進する</li> <li>・地域に根ざし、地域力を生かした学校づくりを推進する</li> <li>・教職員がチームとして学び合える職場環境を推進する</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 社会的自立に必要な能力・態度(社会常識・考える力・対話力・判断力)の育成	<p>○魅力ある「わかる授業」の推進し、主体的に取り組む態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学習指導と評価の一体化</li> <li>・個に応じた学習課題設定と、時代に応じた教材教具を活用した授業の推進(スタディ・ログ、GIGA端末の活用)</li> <li>・教科横断的な学習活動(各教科・領域・総合的な学習)の実施と生きる力の育成</li> <li>・言語活動の充実と読書指導の推進</li> </ul> <p>○対話力を育成し、考え、議論する道徳の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的な課題に対し、一人ひとりが自分自身の問題と捉え向き合うことのできる授業の実践</li> <li>・他者理解を通して、思いやり、優しさ、誠実さのある豊かな心の育成</li> </ul> <p>□</p>	<p>○川崎市学習状況調査分析結果をもとに、適切な教科指導について校内研修を実施し、各教科での授業改善に生かした。学校教育に関するアンケートでは、生徒からは授業についてはわかりやすいとの声もあるが、家庭での取組みについては生徒・保護者共通して不十分という結果であった。このことから、生徒の向上心を大切にしたいわかる授業、学力の定着に繋げる学習指導・支援の工夫が必要である。また、GIGA端末を活用した授業も進めていく中では、対話力や表現力をも育成するために、グループ討議や発表活動もバランスよく取り入れた活動を行った。さらに、バランスよく言語能力の向上と創造的な力を育成するために、継続的に読書指導に取り組むことの必要性を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト前質問会、夏季休業中学習会、少人数授業、TT授業(複数教員授業)を実施し、生徒の学習支援を行った。</li> <li>・GIGA端末を活用したり、話し合い活動を取り入れたたりして、各教科担任が課題に適した授業展開を工夫した。</li> <li>・教育活動全般で、言語活動(話し合い活動)、体験活動、学習会を実施し、生徒の発想を生かした活動場面を取り入れた。</li> <li>・図書室の整備を計画的に行った。総括図書司書には委員会活動に参加していただき、生徒の要望を取り入れた書籍を購入した。</li> </ul> <p>○道徳を教科として指導計画を立て推進することで、継続的に指導と評価の一体化に努めた。キャリア教育、人権尊重教育と連携し、命の大切さや互いを理解し合い思いやりのある心の育成が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任だけではなく学年として多くの教員が関わりを持ち、道徳指導を行った。</li> </ul>	<p>○主体的・対話的な深い学びを意識した授業展開を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びに迫る授業方法や課題提示と解決方法の工夫について、校内で研修をもち、教科横断的に意見交換できる機会を増やす。また、川崎市教育委員会からの指導支援を受け、教員の授業力向上を図る。</li> <li>・GIGA端末の良さを活用した意見交換とグループ学習による対話的場面設定の良さを生かす授業展開方法をバランスよく取り入れ統合できる授業展開の工夫をする。</li> </ul> <p>○読書指導の推進を継続し、朝読書を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と対話力・表現力の育成のため、朝読書の時間を価値づけていく。</li> <li>・図書司書を中心として、生徒の意見を取り入れた図書室の整備を進める。</li> <li>・生徒から生徒への発信も増やし、読書習慣を身に付けることの良さを伝えていく。</li> </ul>

2	<p>実践活動・体験活動等を通して、互いを認め学び合う、共生・協働の精神の育成</p>	<p>○感動する心の育成と生徒の主体的生徒活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を生かした学級・学年活動、生徒会・委員会活動の推進</li> <li>・学校行事を通した「チャレンジ精神」「共生・協働の精神」の育成</li> </ul> <p>○将来を見通し、社会で生きていくための資質・能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア・パスポート」を活用した計画的・系統的な取組の推進</li> <li>・社会的自立に向けた、職場訪問・職場体験の実施</li> <li>・一人ひとりに応じた進路指導と的確な情報提供</li> <li>・SDGs、かわさきパラムーブメント等の視点を取り入れた指導の推進</li> <li>・川崎市制100周年を意識した取組の推進</li> </ul> <p>○個に応じた心身の健康づくりと、安全・安心な学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身共に健康な体づくりの実践(健康教育)</li> <li>・安全・安心で生活しやすい環境づくり推進(防災教育、清掃環境美化活動)</li> <li>・健康給食と学校農園活動を踏まえた食育教育の実践</li> </ul> <p>○思いやりと協力を養い、生徒個々の能力に応じた指導と部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動を通して、よい人間関係の構築と個の能力向上の実践</li> <li>・学校全体で活発な部活動を推進し、健全な心身の育成の実践</li> </ul>	<p>○学校行事の実施に向け、依然として感染力の強い新型コロナウイルス感染拡大防止の安全管理に努め、できる限り実践活動・体験活動を実施した。教職員は、生徒主体の活動となるよう企画・運営の支援に努め、共生・協働の精神の育成を図った。学校教育に関するアンケートでは、行事や様々な活動に対し、役割分担をして仲間と協力して自分の発想を生かしながら積極的に活動できていたと回答する生徒が多かった。継続した指導が成果としてあらわれていると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動を通して、生徒主体でSDGsについて学ぶ企画を提案し、委員会活動をはじめとして、様々な取組方法で実践に繋げることができた。</li> <li>・川崎市や企業と連携し、技能職者に学ぶ会や職業体験を実施し、夢と希望をもち、将来の生き方について学ぶ機会を多くもった。</li> <li>・市制100周年に向け、地域について調べ学習を行い、小学校5年生に向けて発表も行った。また、放送委員会の生徒が、川崎市HPの動画作成に協力した。</li> </ul> <p>○養護教諭を中心に健康に関する情報を提供するとともに、生徒会活動の中でも生徒集会で、食育・健康・体力向上など生徒から生徒へ提案・報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だよりを定期的に発行し、健康に関する情報を提供した。</li> <li>・清掃環境美化活動(新型コロナウイルス感染防止対策を含む)を推進し、落ち着いた学校環境整備に努めた。放課後の活動時間の確保から、清掃活動の方法については見直しを考えていきたい。</li> <li>・生徒が安全安心に学べる教育環境を整えるため、定期的な点検と適切な修繕を行った。</li> <li>・防災教育は年間を通して実施し、自助・共助に関する指導を実践した。有事の時にできる具体的な対策については、さらに学びを深めていきたい。</li> </ul> <p>○学校教育に関するアンケート結果から、生徒は部活動に積極的に参加していた生徒が多い。教職員は、達成感と自信をもたせる部活動指導に努め、人間関係の構築の一助とできるよう指導に取り組んだ。</p>	<p>○主体的な生徒の活動を推進していくために、一人ひとりの役割を明確にし、互いを認め学び合う活動を計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修会を実施し、学級活動や委員会活動の活性化とリーダーの育成を図る。</li> <li>・社会的自立をのねらいをとした職場訪問・職場体験を実施する。</li> <li>・効果測定、かわさき共生*共有プログラムを実施し、有効的な活用を継続していく。</li> <li>・将来につなげられる成功体験、失敗体験を振り返る力を育成するために、生徒の体験活動の実施方法を工夫し、内容を検討する。</li> <li>・生徒会が主体的に取り組み活動に対して、見守り支援することを継続し、学校全体の活性化を図る。</li> </ul> <p>○学校教育を通して、生徒自らが実感する、心身の健康づくりの意識向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食センターや、川崎市教育委員会の取り組みを活用し、食育教育を推進する。</li> <li>・キャリアパスポートを活用した取り組みを見直し、全職員で共有して推進する。</li> <li>・防災教育については定期的な取り組みを行い、自助・共助から、公助へと知識を高めていく。</li> <li>・安全に配慮して部活動を実施し、生徒の健全な心身の育成を継続する。</li> </ul>
---	---	--	---	---

3	<p>・生徒の将来を考え、家庭と地域との連携を深め、協力関係の推進</p>	<p>○心のつながりを大切にした生徒指導と、迅速で的確な初動体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に寄り添い傾聴を心がけた教育相談の充実と生徒との信頼関係づくりの推進</li> <li>・スクールカウンセラー、外部人材と関係機関と連携し、生徒の将来を考えた指導の推進</li> <li>・共生＊共育・人権尊重教育を推進し、いじめや暴力の未然防止と許さない環境づくりの推進</li> <li>・生徒観察、居場所づくりと自尊感情の育成を推進し、不登校の未然防止及び早期対応の推進</li> <li>・ミマモルメを活用した保護者との情報共有</li> </ul>	<p>○日常生活指導の充実と定期的な教育相談を実施し、生徒に寄り添い傾聴する機会を大切に。また、定期的な教育相談を実施し、いじめ等の未然防止に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に関するアンケート結果から、生徒からは良い友達関係が築けている、先生は生徒の気持ちを大切に、悩みや相談事について話を聞いてくれるとの声が多い。生徒同士、生徒と教職員の信頼関係を大切に、生徒の将来を共に考える姿勢で教育活動を進めてきた成果といえる。</li> <li>・時間割に校内巡回担当を割り振り、校内環境整備と生徒の様子を把握することで生活指導に努めた。</li> <li>・スクールカウンセラーと全校生徒の面談を実施し、生徒が必要とするときに相談しやすい環境を整えた。全クラスが終了するまでに時間がかかってしまったことは見直していきたい。</li> <li>・外部機関との連携し、必要に応じてケース会議を実施した。</li> <li>・人権尊重教育についての教職員の校内研修を実施し、生徒理解に努めた。全学年で計画的な外部機関(CAP・ReBit・人権オンブズパーソン)と連携した人権教育授業を実施し、自分らしさを大切に自分づくり等人間関係について学ぶ機会をもった。</li> <li>・共生＊共育プログラム、効果測定を計画的に実施し、人間関係の構築と個々の成長に役立てた。</li> <li>・支援教育コーディネーターを中心とした計画的な運営を図り、個別対応できる環境(リソースルーム)の整備と活用に努めた。また、教育活動サポーターを活用した支援を実施した。個に応じた学びの対応については課題が残っている。</li> <li>・欠席連絡等に配信メールを活用し、情報を共有した。進路指導においても配信メールを活用し、今年度導入されたWeb出願等での生徒・保護者に不安が減るように努めた。</li> </ul>	<p>○一人ひとりを大切にする学校を目標に、日常から相談しやすい環境をつくり、傾聴を心がける姿勢について再確認し、心のつながりを大切に生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止について、教職員の意識向上を図るとともに、生徒同士の人権意識を高めて、いじめ未然防止に取り組む。</li> <li>・不登校生徒への対応について、保護者、スクールカウンセラー、外部機関との連携を深め、一人ひとりに寄り添った支援を模索し、不登校生徒の未然防止に努める。</li> <li>・校内の支援体制を強化し、個に応じた対応ができるよう共通理解を図り、個に応じた支援体制の計画的な運営を継続する。</li> <li>・支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーと面談できる機会を増やしていく。その中で、生徒の成長と自立を大切に、各家庭に応じた支援ができるよう外部機関との連携を図る。</li> </ul>
---	---------------------------------------	---	---	---

4	<p>地域に根ざし、地域力を生かした学校づくりの推進</p>	<p>○地域とともにある、信頼される開かれた学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と地域の教育力を生かす生徒活動の実践(ふれあいフェスティバル・地域に学ぶ会)</li> <li>・地域との連携(コミュニティ・スクール・地域教育会議・教育懇話会・学校教育推進会議)</li> <li>・学校からの情報発信の充実(ホームページ・平だより・掲示板の活用)</li> <li>・学校評価を学校運営へ活用</li> </ul> <p>○学区内小学校及び各施設との交流推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校児童・保護者への授業参観、体験入学等の充実</li> <li>・運動会、体育祭、部活動体験、ボランティア活動等を通して児童生徒交流の実践</li> <li>・小中連携事業を通して、教職員の交流の実践</li> </ul>	<p>○教育懇話会、保護者、学校が連携し、地域・保護者と生徒がともに活動する場を計画・運営した。三者で行うことで、地域に育つ生徒として思い出に残る行事となるよう工夫された温かみのある活動ができ、多面的に生徒の成長を見守ることができた。また、学校教育推進会議・地域教育会議と連携し、学校運営を推進した。諸会議では生徒の発表や報告をする機会をもたせていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともに歩む学校運営を推進するため、令和6年度コミュニティ・スクール導入の検討を行った。</li> <li>・PTAと協力し、多くの地域の方々にご支援いただき、ふれあいフェスティバルを開催した。</li> <li>・地域教育会議を通して、小学校と連携した子ども会議・地域に関する講演会を開催した。</li> <li>・地域に学ぶ会を実施し、地域力をいかした教育活動ができた。この様子は文化祭でコーナーを設けて発表した。</li> <li>・定期的に学校だよりを発行し、行事や学校生活の様子を保護者、地域に発信した。</li> <li>・ホームページでの発信の見直しを行った。正門横設置の掲示板については修繕が必要となり、活用することができなかった。</li> <li>・教育懇話会から協力を得て実施しているジャガイモ、大根の栽培や環境整備を通して、本校の歴史を知るとともに、地域の方々への感謝の心をもつことができた。</li> </ul> <p>○一小一中の良さを生かした交流が推進でき、児童生徒、教職員間でのつながりを強めることができた。・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育祭・運動会等見送った交流もあったが、平瀬川清掃活動や顔を合わせての子ども会議等、地域を好きになるためにも再開できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6年生に中学校入学への不安を少しでも取り除けるよう、体験授業・部活動体験を実施した。</li> <li>・小学校の先生方と授業について学び合い、学びの連続性や平中学校区の教育活動についての意見交換を行った。</li> </ul>	<p>○地域に根ざし、すばらしい地域力を生かした学校となるよう努める。また、地域の防災対策について見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、保護者と生徒がともに活動できる機会を維持し、地域の一員として活動し、体験する機会を大切にしていける。</li> <li>・避難所運営会議と連携し、生徒たちの防災意識の向上を図り、避難所運営の在り方を検討し見直ししていく。</li> <li>・生徒、保護者、地域との意見交換の場を設け、学校運営に生かしていく。</li> <li>・コミュニティ・スクールを導入し、子どもの応援団としての連携を深める。</li> <li>・ホームページの更新を定期的に行い、様々な情報を発信し、地域に根ざす学校運営に努める。</li> <li>・掲示板の修繕を早急に進め、活用していく。</li> </ul> <p>○学びが継続し、信頼される学校となるよう、小学校との連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携教育について、学校間の交流を深め、共通理解に努める。</li> <li>・一小一中の良さを生かし、義務教育9年間を見通した教育活動の取組を推進する。</li> </ul>
---	--------------------------------	---	--	--

5	<p>教職員がチームとして学び合える職場環境の推進</p>	<p>○平中学校としての学び合いを生かした働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の計画・実践</li> <li>・校内OJTを活用した教職員の資質向上</li> <li>・教職員一人ひとりが学校運営に参画し、活力ある職場づくり</li> </ul>	<p>○教職員一人ひとりが学校運営に参画していることを自覚し、活力ある職場づくりを目指した。また、生徒指導、教科指導等で、一人で抱えることなく、チームとして働ける職場になるよう話し合える時間の確保を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導、生徒指導、支援教育、健康安全指導など、学校教育の様々な分野での校内研修を実施した。</li> <li>・総括教諭、中堅教諭をリーダーとし、各学年、分掌、教科で全教職員がともに学ぶ気持ちを大切に若手の育成を支援した。</li> <li>・管理職と定期的に面談し、意見を述べやすい学校環境づくりに取り組んだ。</li> <li>・時間外勤務が多い教職員については、仕事分担の見直しができるように、本校の現状(人的配置・生徒指導等)を考えると困難である。</li> </ul>	<p>○一人ひとりの教職員の良さを生かし、適材適所の仕事分担を踏まえた学校運営計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修に指導主事を招くなどして、チームとしての授業力向上を目指す。</li> <li>・校務分掌の仕事を整理し、次年度への引継ぎをスムーズに行えるよう工夫する。</li> <li>・部活動については、生徒加入数、顧問数から、今後の部活動数について検討をしていく。また、部活動指導員、有償部活動ボランティア、無償部活動ボランティアの配置について、教育委員会と連携し、より良い運営の仕方を考えていく。</li> </ul>
---	-------------------------------	--	--	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学習指導については、基礎・基本の学力を身に付けられるように継続してほしい。T.Tや少人数制の授業形態は、生徒が授業が分かりやすいと感じていることにつながっているのだと思う。さらに学習の定着を図り、より学習意欲が高まることに期待したい。また、GIGA端末を活用した授業については、今を生きる生徒たちにとって、当たり前になりつつあり、学んでほしいところでもある。様々な場面で活用されていることは生徒たちの意欲向上に役立っていると思うので、今後もさらに工夫し充実した活動を取り入れて行ってほしい。</p> <p>今年度SDGsについての取り組みは、地域教育会議、小学校との連携も進み、良い活動ができています。子ども会議で話し合った小学校と中学校で共通していける取り組みをぜひ実現し、生徒・児童の生き生きとした活動が楽しみである。</p> <p>3年余り続いていたコロナ禍が一区切りし、生徒たちの協力と学校側の努力によって多くの学校行事が実施できたことは喜ばしい。保護者や地域の人々が学校へ来校し、参加できる機会は増えてきているが、学校での取り組みの様子はまだまだわからないことも多い。このことが、学校評価アンケートの生徒と保護者の回答との違いにあらわれていると思われる。ぜひ、学校側からの教育活動状況の発信を増やし、今、学校で何が行われているかを知ることができれば協力できることが明確になり、地域全体の関心が深まるような学校運営を推進してほしい。</p>	<p>安全安心に過ごせる環境づくり、生徒に寄り添う指導を心がけ、一人ひとりを大切にする学校、地域に根ざす学校をめざして学校運営を進めた。すべての教職員がチームとして同じ方向を向き、個々の力が発揮できるよう情報共有に努めた。学校アンケート結果から、生徒はおおむね充実した学校生活を送っていると思われるが、今後も誰一人取り残すことのない教育をめざし、教育を実践していきたい。</p> <p>今年度は保護者の方々や地域の方々や直接お会いできる回数は少し増えたものの、教育活動の現状を保護者の方々や共有が十分にできているとは言いがたい。来年度は、学校からの発信力をさらに高め、生徒たちの成長を保護者・地域・教職員で共有できる機会を増やしなが、地域の方々や保護者の方々からの意見を多く聞き、より良い関係を築いて教育活動の展開していく。</p> <p>教職員同士が、GIGA端末を授業での有効活用方法について学び合い、生徒の学習に生かすことができきた。わかりやすい授業を目指し、基礎学力の定着をはかりながら、主体的・対話的で深い学びの見とりと評価、教科横断的な取り組みと合わせ、今後も重点をおき研修を重ねて、個別最適な学びを探ってきたい。</p> <p>キャリア在り方生き方教育を推進する中で、効果測定、かわさき共生* 共有プログラムを計画的に実施し、自己肯定感・自己有用感を高めより良い人間関係づくりに努めた。さらに、生徒の関心が高いSDGsについては学校として、授業、委員会活動など、多岐にわたり取り組むことができた。道徳教育、人権尊重教育など、命の大切さや他社理解など心の教育については、学校だけではなく、外部機関とも連携して「自主・自立」「共生・協働」を重点に置いた教育活動を継続していく。</p>